



開物成務

令和5年 12月21日(木)発行

校長 津田 千由美

ゆく年くる年

教室からはジングルベルの歌声が聞こえてきます。早いもので2023年も残すところ9日、明日からはいよいよ冬休みです。

通学路や学校内で出会ったときに、自分から挨拶や会釈のできる「開成小のすてきさん」が増えてきました。今年は、皆さんにとってどんな1年間でしたか。

◆人権朝会◆

「人権とは、みんながもっている幸せになる権利です」

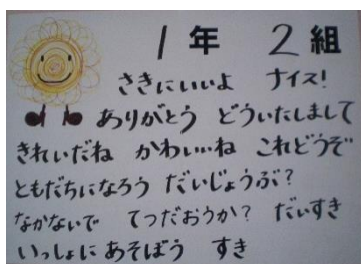
12月4日(月)～10日(日)は人権週間でした。校内でも、11月28日(火)に「人権朝会」を行い、真保教諭が『ちくちくとふわふわ』という絵本の読み聞かせを行いました。

その後、学級ごとに「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」について話し合い、自分たちが普段使っている言葉を振り返るきっかけとなりました。

今、ふわふわ言葉を廊下に掲示しています。

一人がたった一つのふわふわ言葉を使うことによって、学校中に500個以上のふわふわ言葉が増えることになります。

みんなが幸せな気持ちになりますように。



◆すこやか会議◆

11月から12月にかけて、すこやか会議(学校保健委員会)が開かれました。今年度のテーマは「自分の気持ちを伝えてみよう」です。

「自分の気持ちを相手に伝えられない」と悩んでいる子どもたちの姿を多く見かけます。

そこで今年度は、岡崎スクールカウンセラーをゲストティーチャーに迎え、6年生が、自分も相手も尊重する伝え方＝アサーティブな自己表現を学びました。

「事実・気持ち・要求(どうしたいか)を分けて表現するとよい」

と、スクールカウンセラーさんから具体的なポイントを教わり、ロールプレイを通して伝え方を体験しました。



自分や友達を大切にしたい方は、とても大事なことを知った。これからは言葉遣いに気を付けながら友達との絆をもっと深めたい。～児童の振り返りより～

ふわふわ言葉を使うことも、アサーティブな話し方をする 것도、自分の命、人の命を守ることに繋がります。冬休み期間中も、ぜひ言葉や命を大切にしてください。1月9日にまた笑顔で再会しましょう。

◆第2回学校運営協議会◆

11月30日(木)に第2回学校運営協議会が開かれました。5時間目の授業を参観後、協議会を行いました。その中でいただいた主なご意見

- どの学級も落ち着いて、のびのびと授業を受けている。コロナが落ち着き、グループ活動が再開され、活気が見られる。
- 授業の中でタブレットが有効的に活用されている。今後も教材開発を進めたい。
- △ハンカチを持っていない子が多く見受けられる。衛生面の配慮も継続的に行っていきたい。

を紹介します。

また、保護者の皆様には、ご多用の中、学校評価アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。学校運営協議会でいただいたご意見や学校評価アンケートの結果を踏まえ、今後の教育活動に生かしていきたいと考えます。

しいのみコンサート～150周年記念イベント～

12月20日(水)、WAIWAI スティールバンドさんをお招きし、150周年記念イベントしいのみコンサートが開かれました。当日は、60名以上の保護者や地域の方々にもご参加いただきました。スティールパンといういろいろな形の鉄製の楽器から、こんなに素敵な音色が奏でられることに驚き、心が豊かになる感動の時間を共有することができました。

この日は「ド・レ・ミ」が隠れている給食のメニューも提供され、栄養教諭さんの粋な計らいとスティールバンドさんのすてきな演奏のおかげで、学校中に笑顔が溢れました。



東海大学留学生交流

12月13日(水)、東海大学の学生10人が開成小学校に来校しました。韓国、フィンランド、スペインなどいろいろな国籍の留学生たちです。5年生の子どもたちに向け、ご自身の出身国のプレゼンテーションをしていただきました。食べ物、小学校生活など身近な内容だったため、自分たちの生活と比べながら興味深く聴くことができました。

「小学校や中学校は何年生まであるのですか？」
「日本に来たとき、どんなことを感じましたか？」
など、子どもたちからの質問が尽きず、帰るころにはすっかり仲良くなっていました。

他国の文化を知ることは、互いの違いや多様性を受け入れる素地づくりにつながります。子どもたちにとっても、学生たちにとっても、互いに深い学びとつながったことでしょう。



給食をしよう

柳川栄養教諭が1年生の生活科の授業に、ゲストティーチャーとして登場しました。

「給食室で使っているざるは、どちらでしょう？」

1年生2人の頭がすっぽり入るくらいの大きさに、子どもたちは驚いていました。さらには、このざるに20キロ近くもある食材が入るというのですから、驚きは倍増です。

調理道具やその大きさ、調理員さんの仕事の内容などがとてもよくわかりました。嬉しいことに、その日の1年生の給食の残量はとても少なく、お皿には食べかすもなくてきれいに片付いていたそうです。作ってくださった方への感謝の気持ちが伝わってきました。



もうすぐ2023年が終わります。2024年、どんな年にしたいですか。

先日、6年生全員の卒業文集を読み終わりました。その中には、将来への夢がたくさん書かれてあり、読んでいくこちらも元気をもらいました。

知り合いの精神科医が言っていました。

「子どもは、自分の10年後に、明るい希望のある夢をもっていることがとても大切です。」

と。この先、誰にも、多少の挫折や困難が待っていることでしょうか。しかし、明るい未来を描くことのできる子どもは、その壁を自分の力で乗り越えられるというのです。大谷選手は、卒業文集に「野球で全国大会に行く」という夢を記しました。今、それ以上の目標に向かって邁進しています。予期しなかった2度の大手門など険しい道のりもありましたが、それも含めて人生を楽しんでいるように見えます。

子どもが明るい未来を描けるように、私たち大人も果たすべき役割は非常に大きいと思います。

「わたしも、ああいう人になりたい」

「わたしは、〇〇の役に立っている」

というように、あこがれる大人が身近にいたり、自分が必要とされているんだと感じられたり…きつとそんな環境が、子どもの夢を大きく育てるのでしょう。

日本の昔からのことわざに「言霊(ことだま)」という言葉があります。「言ったとおりに、願ったとおりに、物事は実現する」という意味です。プラスの言葉がけで、未来は変わるかもしれません。

2024年、新しい年に向けて、明るく希望のある言葉を意識して伝えていきたいものです。

皆さん一人ひとりの心の中に、明るい未来を思い描くことができますように…。

今年も大変お世話になりました。良いお年をお迎えください。



わたしのひとりごと